

古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」 2020 年度第 6 回 報告書

開催日 2020 年 9 月 26 日(土) 読書会 9 時半～12 時半

開催場所 Zoom にて開催

参加者 5 名(全て会員)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)朗読

阿部國治著・栗山要編「第四集 受け日」を、Zoom を用いて全員で順番に輪読

(3)読後感

- 「ことよさし」を受命した須佐之男命が、くさくさして「なきいさち」に至るまで、伊邪那岐大御神がフォローを入れなかったのが疑問。思い違いをもっと早く正していれば、現し国は荒れ果てなかった。フォロー無しで成し遂げられるのが、神様なのかも。仕事に照らして、ちょうどよいタイミングでのフォローの大切さを感じた
- 大国主命の先生である須佐之男命が「なきいさち」をしていた、という大国主命誕生前のエピソードであり、スターウォーズの新作と重なった（ダースベーダが何故悪者になったのか、というエピソード）
- 一般の解釈（岩波文庫）では須佐之男命と天照大神の関係の描写は異なっている、（姉：自分の地位を奪われる危惧。須佐之男命をこらしめない。）（弟：高天の原を手に入れようとやましい気持ち）阿部先生がこれと違う解釈をして受け日を書かれた、というところが深い
- 化育（かいく）という言葉を知ったが、「全ては自然から育つ」ということ。昨今の ESG 経営、SDGs の概念等は企業の営利目的に沿わなくても自然を大切に、との動きであり、古事記の教えと通じる
- 天照大神が須佐之男命に厳しく当たる「いつのおたけび」に、新入社員時代の経験を思い出した。実家近くの現場に実家から通いたいと申し出たところ、「実家から通えば甘えが出る。また現場が変わり、1 人暮らしになった時が辛くなる。実家からは通わせない」と言われ、寮から片道 1 時間半通った
- 府中本町にある大國魂神社に須佐之男命が奉ってあるが、正確に伝わっていない
- 「受け日」は原文ではわずか 1 行のお話だが、話をここまで膨らませた阿部先生は凄いな、と思った
- 「受け日」には「お日様の光をもらうこと」「自分の中に光をもつこと」の 2 つの意味があると解釈した。この 2 つが響きあって初めてうまくいく
- 「受け日」で須佐之男命の体がばらけ、透明になって、またくつつく、というくだりは、少なさまがいなくなって大国主命が混乱する際に御霊しずめをして透明になった、というところと重なった。そこでも、光の正体は自分、ということであった
- 「い」と「ひ」等の一文字一文字が持つ意味の話等が出て来て、日本語は意味が深いと思った
- 音読し、年齢とともに悪くなる滑舌をますます実感したが、「声に出して読む」大切さを改めて感じた

【次回予定】

2020 年 10 月 24 日(土)9 時半～11 時半。次回も Zoom により再び「受け日」を味わう予定

■参加申込方法：開催日前日正午までに、下記必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】 所属支部、氏名、緊急連絡先(携帯)

【申込先】 reading-circle@womencivilengineers.com (担当：小林)



ZOOM での読書会の様子

以上